

平成 30 年度 第 1 回浦安市生涯学習推進計画策定懇談会

議事要旨

日時：平成 30 年 7 月 5 日（水）
午後 2 時～ 4 時

場所：市役所 10 階協働会議室

<出席委員>

野島 正也	委員長
藤田 朗	副委員長
野川 春夫	委員
米山 泉	委員
影山 栄子	委員
武澤 秀明	委員
工藤 真由美	委員
福元 明彦	委員
阿部 信之	委員
御前 雅一	委員
吉野 忍	委員
上野 実千代	委員
登内 明	委員

<欠席委員>

関谷 昇 委員

<議 事>

1. 委嘱状の交付
2. 開会
3. 議事
 - (1) これまでの検討内容について
 - (2) 計画策定方針及びスケジュールについて
 - (3) 市民ワークショップの開催について
 - (4) 生涯学習推進計画策定懇談会における分科会の実施について
4. その他
5. 閉 会

<配布資料>

- 【資料 1】 基礎調査の概要
- 【資料 2】 これまでの検討内容について
- 【資料 3】 第 2 次浦安市生涯学習推進計画_策定方針（案）
- 【資料 4】 浦安市の生涯学習に関する市民ワークショップ開催要項
- 【資料 5】 懇談会（分科会）の概要

1. 委嘱状の交付

今年度から新たに委員になった2名に委嘱状の交付が行われた。
委員の自己紹介と事務局の紹介が行われた。

2. 開会

会長よりあいさつが行われた。
教育長あいさつが行われた。

3. 議事

(1) これまでの検討内容について

事務局より議事(1)について、資料1、2を用いて説明が行われた。

委員 資料2に課題で、障がいの有無にかかわらずという表現がある。精神的な障がい、肉体的な障がいどちらを表しているのか、あるいは、両方を表しているのか。

事務局 精神的、肉体的と区別はしていない。両方を表している。

委員 生涯学習関連団体へのヒアリングについて、7公民館から計12団体とあるが、市民の活動団体が400あるという数字も示されている中で、対象の数が少ないのではないか。

事務局 調査票を用いて市内の生涯学習施設の利用者1,464名、スポーツ施設の利用者582名からアンケートの回答をいただいている。そのほか、ペーパーでは把握しきれない事柄をヒアリングしたいと考え、各公民館を拠点に活動する団体から、スケジュール等に対応いただける団体にヒアリングをさせていただいた。

委員 文化的な活動、福祉的な活動など、活動の種類は偏りなく団体をピックアップしたのか。

事務局 団体の規模に関わらず、文化的な活動や子育てサークルなど、様々な活動団体を対象とさせていただいた。

委員 市民意識調査で、市の取組の重要度と満足度を聞いた設問があるが、そこでは、ハード面で重要度満足度がともに高く、ソフト面でともに低いという結果が得られた。こうした結果を踏まえて、資料2では計画の課題を整理しているという理解でよいか。

事務局 「生涯学習に関する市民意識調査報告書」のP69で重要度と満足度の関係を整理している。そこでは、重要度満足度がともに高い選択肢は公民館、図書館、スポーツ施設に関連するものとなっており、重要度満足度がともに低い選択肢は情報提供や意識の向上といったものになっていた。

資料2は、調査結果から得られた課題として整理しており、今後委員の皆さまの議論等を踏まえて、計画の課題としてまとめていきたいと考えている。

委員 仕組みづくりに関連する項目で満足度が低いという結果が見て取れる。今後取り組むべきことはそのあたりだと考えられるのではなか。

事務局 そもそも市民の方に重要かどうかを認識されていない取組もあると考えている。その点をふまえると、重要度と満足度の関係をふまえて課題を整理していけるとよいと考えている。

委員 認識されていないということも仕組みの問題と捉えられる。

事務局 懇談会でご意見をいただき、課題をより深掘りしていきたい。

委員 長 データをどのように読み込んで市民の意見として集約していくか、どのように厚みを持たせていくかを懇談会で議論していきたい。のちほど説明があると思うが、今後は分科会形式で議論を重ねていき、その結果を策定委員会に提示し、行政内部の考え方と照らし合わせて次期計画の課題としてまとめていきたいと考えている。

委員 スポーツ推進委員では、これまで健常者を対象とした取組が多かった。オリンピック・パラリンピックをひかえ、障がいのある方を対象とした取組も増やしていけないかという意見がある。しかし、障がいのある方との接点が少なく、どのような取組が求められているかがわからない実情がある。

事務局 本計画を策定するにあたり、障害者団体等から意見を聴取しているか。

事務局 障がいのある方を対象としたヒアリングや調査は実施していない。市民意識調査では回答者に障がいの有無を尋ねる設問はないが、問24で障がいのある方がスポーツに親しむために必要な取組を尋ね、「バリアフリー施設の整備」という回答が最も多くあげられている。浦安市内には、障がいのある方と健常者は一つのチームとして活動しているフットサルチームもある。障がいの種別によってもニーズや考え方を整理するという視点も重要だと認識はしている。

委員 こういったアプローチが必要だということを意見として受け止めてほしい。

委員 長 スポーツに限らず、障がいのある方たちの生涯学習を推進していくという国の流れもあり、今のご意見は避けて通ることができないものであると考えている。

委員 「生涯学習に関する市民意識調査報告書」のP69の分析はどのように行っているのか。

事務局 P67、68のグラフから各項目を点数化して、散布図で表現している。

委員 重要度や満足度の高低の境目にある選択肢に大きな違いがあるとは言いきれないのではないかと。例えば選択肢⑨と⑩はそれぞれ満足度が別の象限に分類されているが、数値の差は大きくない。

事務局 P69の図は全選択肢の相対的な位置関係を示すことを目的としてお

り、そういった一つ一つの選択肢の位置関係を見て、重要度満足度の高低を区別するものではないと考えている。

- 委員
事務局 4象限に分けた境目はどのように求めているのか。
重要度満足度それぞれの選択肢の平均値を境目として線を引いている。
- 委員
事務局 重要度と満足度の関係をこの図をもってのみ判断するのは、難しいのではないか。
この分析では重要度が高く満足度が低い取組を把握することが重要だと考えている。市民の意識として重要であるが、満足できていないという取組を把握し、課題を深堀していけるとよいと考えている。
- 委員 重要性を認識できていないという視点も大事である。

(2) 計画策定方針及びスケジュールについて

事務局より議事(2)について、資料3を用いて説明が行われた。

- 委員
事務局 西暦と和暦が混在している。資料作成時に統一できるとよい。
修正する。
- 委員
事務局 計画の期間について、市の実施計画が第1期から第4期とあるが、第1期の計画の内容はいつわかるのか。
企画部門で現在策定中であり、詳細は現時点で把握できていない。2020年からの計画となることから、詳細がわかるのは来年度になるのではないか。企画部門との連携し、計画の整合を図っていく必要があると考えている。
- 委員
事務局 実施計画の中身と本計画でオーバーラップする部分はどのくらいあると想定しているのか。また、別物と捉えてそれぞれで取組を進めていくことになるのか。
どのように整合を図りながら計画を策定していくかは、今後企画部門とも相談・調整をしていく。
- 委員長 同時並行で大変だと思うが、必ずしも上位計画からおりてくるものだけではないと思うので、こちらから意向を伝えるなど、連携しながらそれぞれの計画を策定するというプロセスで進めてほしい。

(3) 市民ワークショップの開催について

事務局より議事(3)について、資料4を用いて説明が行われた。

- 委員長 意見はあるか。
なければ次の議事に進む。

(4) 生涯学習推進計画策定懇談会における分科会の実施について

事務局より議事(4)について、資料5を用いて説明が行われた。

委員長 限られた回数での議論となるので、分科会に分かれて議論を進めるという提案が事務局よりあった。また、分科会のメンバーも事務局からの提案があった。意見等はあるか。

全委員 事務局案を了承する。

分科会ごとに分かれて、事務局より分科会の趣旨説明を行い、それぞれ意見交換を行った。

4. その他

次回は8月に分科会形式での開催を予定している。また、次回会議に向けた日程調整表及び課題検討シートは後日提出してもらうこととした。

5. 閉 会

以上